

産業生活常任委員会

(平成25年8月16日)

加藤清助委員長

本日は、ご案内させていただきましたように、この委員会終了後、午後5時20分から競輪場の視察という予定になっております。市役所の出発は5時を予定しておりますので、その予定でお願いいたします。

なお、本日は、所管事務調査ということで、委員のほうから提案がありました二つ目の事案で、ばんこの里会館についてを所管事務調査の調査事項とさせていただいております。

経過から申し上げますと、平成23年9月定例月議会の決算常任委員会の附帯決議で、このばんこの里会館のあり方について附帯決議がなされた関係で、先般、決算常任委員長にこちらの当委員会のほうで所管事務調査とすることについてお伝えをさせていただきました承をいただいておりますので、申し添えたいというふうに思います。

それでは、ばんこの里会館についてこれから説明をいただきますけれども、平成24年度中にこの報告書がまとめられまして、本年4月に当委員会でも報告がなされたというふうに伺っておりますので、本日のところは、この報告書を受けて、部局のほうで検討状況とか対応状況についてご報告、説明をいただいて、そこについて質疑、ご意見を伺うというふうなところを論点にしてはどうかというふうに思っておりますので、そのような形で進行させていただきます。

それでは、部長。

永田商工農水部長

よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員長のお話にもございましたように、ばんこの里会館の報告書につきましては、若干重なるところもございますが、委員の皆様もおかわりいただいているところもありますので、あり方の検討会の報告書を少し簡単にご報告させていただいた後、A3のペーパーのほうで現在の状況についてまず説明をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

服部工業振興課長

それでは、ご説明をさせていただきたいと思ひます。

冒頭、委員長におっしゃっていただきました附帯決議なのですが、その附帯決議をご確認いただきたいと思います。

報告書の3ページをごらんください。

下から二つ目の段落のかぎ括弧の部分でございますが、ばんこの里会館建設事業補助金の債務負担行為が平成24年度で終了することに伴い、萬古陶磁器振興協同組合連合会と市が協議して、同会館のあり方を検討し、当年度中に将来的な計画を策定するとともに、その後の予算において必要な措置を講じることという附帯決議をいただいたということでございます。

それを受けて、あり方検討会を設置して検討を開始したわけですが、検討の前提としまして、報告書の1ページをごらんください。

真ん中ほどに「そこで」で始まる段落がございますが、四日市市では、ばんこの里会館が市民にとって貴重な財産であるとの認識のもとに、ばんこの里会館のさらなる価値向上を目指して、そのあり方をゼロベースで検討するというのが検討の前提でございました。

また、検討の経過といたしましては、その次の段落でございますけれども、当初、ばんこの里会館の運営主体である萬古陶磁器振興協同組合連合会からは、会館の運営について四日市市が行っていく形態とすべく要望がございました。

一方で、四日市市としましては、連合会側が積極的に運営を行っていくことを前提に支援するという姿勢で、平行線の状態でありましたが、意見交換を重ねる中で、萬古業界の若手組合員からさまざまなアイデア提案や自主的なワーキンググループ設置による事業の検討を進められるようになり、連合会としても引き続きみずからが主体となって運営し、四日市市としても公益的機能の向上を前提に、可能な限り支援をしていくということで、おおむねの意見の一致に至ったということでございます。

簡単に、以降、報告書の中身をご説明させていただきますが、報告書の2ページをごらんいただきたいと思います。

確認ということになってしまうと思いますが、ばんこの里会館の建設の目的がまず書いてございます。下から5行目の部分ですが、萬古業界の活動拠点整備と萬古焼の紹介施設整備を目的としたということでございます。この後段の萬古焼の紹介施設整備ということの中には、産業としてだけではなく、四日市市の文化、歴史、観光資源としての萬古焼という意味合いを含んでいるものと理解しております。

その下の建設事業収支のところ、2行目でございますが、終わりのほうで、事業主体

は連合会でございます。

1行飛んでありますように、施設の土地は萬古陶磁器卸商業協同組合、駐車場の土地は萬古陶磁器工業協同組合の所有ということで、土地代はかかっておりません。

建物の建設費として約11億円がかかりまして、下の表の右側にありますように、建設年度の補助金を差し引いた残額の8億570万円を連合会が三重県から無利子の資金の借入れを行いました。

そして、平成10年度から15年かけて行う償還につきまして、当初の平成10年度に債務負担行為の議決をいただきまして、その全額を市から連合会に対して補助を行ったということでございます。

3ページをごらんいただきました。4ページ以降が内外環境の整理ということで、4ページは時代環境のことが書いてございますし、5ページは施設の概要、6ページが館内案内図ということですが、説明を省略させていただきます。

7ページをごらんいただきたいと思います。

7ページからは事業活動の現状が記載してございます。(a)といたしまして、1階の左側、陶芸工房を使いました陶芸教室では、陶芸体験コースや絵つけ体験コースのほか、定時陶芸教室などといった事業を行っております、一番下の表にございますように、年間7000人弱の来客があり、1200万円程度の売り上げがございます。

8ページをお願いいたします。

2階にありますショップのうつわ亭は、真ん中ほどの表にございますように、毎年6000人弱の来客がございまして、1500万円程度の売り上げがあるという状況でございます。

また、貸し室につきましては、9ページの上の表にございますように、750件程度の実績のうち、約3分の1が公的利用という状況でございます。傾向といたしましては、公的以外の利用がふえてきているという状況でございます。

10ページをお願いいたします。

運営主体である連合会の収支状況の記載がございます。

下の表をごらんいただきたいんですが、収入につきましては、先ほどのショップや陶芸教室の売り上げ、それから、市などからの補助金収入が主なものでございます。

支出につきましては、事業費用のほか、一般管理費として、人件費や会館の維持管理費がございます。11ページで課題の整理を行っておりますが、まずは、の赤字運営ということでございます。ショップの売り上げなどが減少傾向にあることから、連合会として毎

年赤字が続いているという状況でございます。

また、 の責任体制の明確化でございますが、運営主体である連合会の理事長は、連合会を構成する萬古陶磁器工業協同組合と萬古陶磁器卸商業協同組合の持ち回りとなっております。また、継続性のある責任を持った運営を行いにくいという課題があるということでございます。

次、12ページをごらんください。

施設の老朽化などという項目にしてございますが、ばんこの里会館は建設後15年が経過いたしました。15年といえますと、地区市民センターなどの公共施設では、建物を長く使うために屋根や外壁などのメンテナンスなどを行う年数でございます。ばんこの里会館でも、一部ふぐあいが発生しておりますが、建物を長く使うという観点からは、手を入れていく必要があるというふうに思っております。

また、ここの文章の終わりのほうにございますように、2階ショップの部分の存在が外からはわかりづらく、顧客の増加につながりがたい状況になっているなど、館内施設のレイアウトに起因する課題も幾つか指摘されているという状況でございます。

これらの課題に対応するために、13ページ以降で施策としての整理がされておりますが、この部分につきましては、別紙で抜き出しをしまして、連合会の取り組み状況を書き加えましたので、そちらでご説明をさせていただきたいと思っております。

A3版の1枚物のほうをごらんください。

一番上の施策の でございます。継続性を持った責任ある運営ができるよう専任管理者を設置するもので、右のほうで連合会における取り組み状況は着手済みとなっておりますが、これは、検討会のメンバーでありました岡田文化財団の前事務局長、中村氏に推薦をお願いしているというものでございます。できれば大手流通に精通したOBの方で、少しの謝礼で半分ボランティアのような形でお願いできるような方ということで探していただいておりますが、なかなか引き受け手がなく、決定に至っていないという状況でございます。

施策 のハード面の整備でございますが、これは、現在、連合会において、修繕項目の洗い出しの、これについては恐らく数千万円という多額の経費がかかる見込みであることから、連合会としての中長期的な収支計画を作成していただいているところでございます。

その下、(1)陶芸工房の改革でございますが、施策1-1のように、小学校などを対象に出張絵つけ教室を実施して、教育文化機能を充実していくこととしております。着手

済みとしておりますが、学校や教育委員会などと打ち合わせを行っているという状況でございます。

一番下の施策 1 5 でございますが、陶芸教室の料金体系の見直しにつきましては、収支の改善を図るためのものがございますが、4月から定時陶芸教室の値上げに踏み切ったということで、実施済みということにしております。

黄色の部分、(2)のうつわ亭のリニューアルにつきましては、施策 2 1 で充実した品ぞろえを目指していくこととしており、当面の施策として、9月6日から9月8日でございますが、急須1000点以上をそろえるフェアを開催して、イメージの発信をしていくこととしております。

また、11月にも同様に、数多くの土鍋を集める土鍋フェアを開催する予定になっております。

施策 2 3 では、陶磁器以外の地場産品を販売するというので、既に1月から、四日市市の銘菓やお茶の販売を行っているということで、これも実施済みということにしております。

それから、施策 2 5 では、業界の拠点機能を充実するために、ばんこの里会館を会場とした商談会の開催を計画しておりまして、現在検討中という状況でございます。

施策 2 6 では、集客、売り上げの向上を目指して、ショップを1階へ移設することを検討することとしておりますが、移設候補の1階右側の展示スペースでは現在よりも狭くなってしまったために、品ぞろえの充実ができないなどのデメリットがございまして、連合会において費用対効果を検討していただいているところでございます。

(3)赤い部分、資料館の設置でございますが、これは、観光機能や教育文化機能の向上を図るために、展示物や学習スペースを充実していくこととしておりまして、展示物につきましては、博物館や文化会館など、ほかの展示施設とすみ分けを行うという観点から、焼き物の作品ではなく、産業としての萬古焼という視点のもとに、機械や道具といったものの展示を行っていくこととしておりまして、現在、組合員に対してそういったものの提供を呼びかけていただいているところでございます。

施策 3 - 4 につきましては、連合会ではなくて市としての取り組みということになりますが、例えば美濃市や常滑市などといったほかの産地の資料館などは、市が直接運営をしているということもございまして、また、観光機能や教育文化など、公益機能であるということから、報告書においては、市が連合会に対して運営を委託するということになって

おりまして、現在、庁内において検討、調整を行っているところでございます。

(4) オープンキッチンにつきましては、現在の飲食施設であります2階のにじいろ堂と連携した事業が行えるように、その奥、2階の研修室を改修するというものでございまして、連合会において改修の内容と改修後の事業について検討を行っていただいています。

(5) のホール、研修室、貸し室の部分でございますが、これにつきましては、生け花や個展などといった文化的事業や、地区事業での利用促進などに取り組んで、稼働率を上げて収支の改善につなげていこうということにしております。

これら施策に対する市の支援の姿勢については、報告書の33ページをごらんいただきたいと思えます。

33ページに 市の支援という記載がございますが、今後も会館が多くの方に利用され、会館が市民の財産として維持、発展していくためには、本報告書に掲げた産業観光や教育文化に貢献するさまざまな事業への取り組みを行うなど、より公益的機能を持った施設として維持していくための市の支援が必要であるという整理にしております。

具体的な支援のあり方につきましては、現在調整中でありまして、資料による報告という段階に至っておりませんので、お許しをいただきたいと思えますが、先ほどA3版1枚で見いただきました各種の施策は、大きく分けると、施設を維持して長く使うための大規模修繕、それから、オープンキッチンなど施設のリニューアルを行い集客につなげるもの、それから、集客や情報発信のためのソフト事業という三つに分類をすることができます。

庁内調整を済んでおりませんので、あくまでも担当所属としての考え方でございますが、ソフト事業などは2分の1の補助を基本とします現在の制度で対応し、大規模修繕などにつきましては、割合を高めた支援にしていく必要があるというふうに思っております。今後、庁内調整を経まして、総合計画第2次推進計画に掲載していくこととしておりますので、ご了解をお願いしたいと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

加藤清助委員長

ありがとうございました。

報道機関の方が傍聴に入られました。

お聞き及びのとおり、報告書と報告書取りまとめ後の連合会及び市の取り組み対応状況

ということでご説明いただきましたが、後段にありましたように、市のほうは考え方レベルでまだ具体的に対応のところは策定できていないというお話でした。これを受けて、委員の皆さんからご質疑、ご意見を承りたいと思います。

小林博次委員

経過も踏まえて少し質問したいんやけど、結局、このばんこの里会館あり方検討会の報告書は、結果としては、市の支援が欲しいと、一番、33ページのまとめだけど、こういうことなんやな。そのための理屈が書いてあるわけや。そのための理屈がいっぱい並んであるわけやね。手短かに言うとな。そういう理解でええな。

服部工業振興課長

ばんこの里会館を今後も維持、発展させていくために、まず何をしなければならないかという整理を行ったのが大きな目的でございます。それらの事業を展開していくために、市の支援が必要だという整理でございます。

小林博次委員

僕のほうは簡単に言い過ぎたけど、最初は萬古陶磁器卸商業協同組合の倉庫があって、老朽化して、自分たちで建てかえは無理やと。何とかして欲しいということで、今あるようなばんこの里会館ができ上がったわけやね。当初から維持管理に大変金がかかって難しいよと、こういう話があったけど、そういうのは全然加味されなかったわけ、当時はね。だから、赤字のままスタートしていったというのが真実の姿としてあったと思っておる。

それに対して、あり方検討会の、こういうふうの中身を検討してみたらどうかという検討中、もしくは実施中のものが書いてあるんやけど、ここで質問なんやけど、これをやると黒字になるわけやね。市が手に入れたやつを足すと黒字になる。どんなことになっておるの。

服部工業振興課長

連合会としての収支計画は現在作成をしていただいているところでございますが、最終的には市の支援を加えた部分で黒字運営になっていくように支援をしてまいりたいと思っております。

小林博次委員

どんな施設でも、市が黒字になるまで金を入れたら黒字になるに決まっているんやわな。だから、考え方がちょっとずれていないのかなと思って。自分たちの足できちっと立てるようなことを支援していく、やっぱりそういう姿勢がなかったら、こんなの維持できやへんと思う。あなた方、ほかの施設のとき、何と言うの。赤字が多かったら壊しますということやろう。後で出てくるけど、オーストラリア記念館でも、あなた方の物差しに合わんから壊すわけやろう。

だから、考え方が、さまざまな施設があるんやけど、四日市市も、一定方向を向いていかんと成り立たんと思うんやわね。例えば、昔から言われている萬古焼とお茶とあるけど、そう高いもの、両方とも誰が買う。幾ら手にしても両方とも買わんですよ、特に今の若い人は。

だけど、この前も、ロングビーチ市と姉妹都市提携のときに、お茶を四日市市から持っていったけど、50万円ぐらい仕入れて持っていったら2日間で完売したよね。健康食品であるお茶をどうやってしたら買えるのかという問い合わせも二、三件あったと思うんや。実際には、あと来ていなかったけど。

だから、狭い範囲で物を捉えても、なかなか黒字化というのは難しいと思う。黒字化していくのは難しいと思う。衰退の一途やと思う。

だから、実際に活性化して、こういうばんこの里会館が黒字に転嫁しようとする、国内だけではなくて、むしろ国際的にさまざまな企画、イベントが組まれないと、いつまでたたって、市の持ち出しを当てに黒字化していくということにしかならんのではないかなと思っているんやけど。

だから、こういう施策はわかったけど、これだけで市の補助金を当てにせずに黒字化できるのなら、これは立派なもんやけど。そうでないのなら、もう一工夫ないとまずいのではないのかなと、こう思っておるんやけど。

服部工業振興課長

黒字化の部分につきましては、ショップにおける売り上げの増加であったり、陶芸工房の利用者の増であったりということで、運営主体である業界の努力による部分によって実現していただく部分であると思っています。私の説明が若干悪かった部分がございます。

市の支援につきましては、黒字化のための支援ということではなく……。

小林博次委員

そうすると、この施策は、市のお金を入れなくても黒字になるという答弁に変更するわけ。

服部工業振興課長

大規模修繕とか、大規模な……。

小林博次委員

それは別や。

服部工業振興課長

事業の部分につきましては、そういう業界の部分で黒字化になるようにしていただけるものと思っております。

市の支援につきましては、黒字化を目的とするものではなく、ばんこの里会館の持つ公益的機能に対して支援を行っていくものというふうに整理をさせていただきます。

小林博次委員

僕ばかりしゃべってあかんでやめておくけど、関係者が2人おるのでしゃべりにくいんやけど、やっぱりお互いが自立をするということを前提に物を組んでいかないと、何か借金払いが終わったから、お前ら、その分、補助金でよこせよという発想やったら、こんなの大問題だと思う。だから、きちっとそのあたりを行政側も腹に入れて、業界も腹に入れて、どうやってしたら生き残りできるのやということをしていかないとうまくいかんと思うね。

私も、四日市市ではありませんが、向かい側、多治見市の活性化に参加させてもらったことがあるんやけど、やっぱり業界の熱意がかなりある。だから、おまえら金を出せと違って、こんなふうになりたいから協力してくれという支援要請やったと思うんやわね。だから、そういうあたりをもっと引き出さんと非常にまずいかなと思っておるんやわ。

その前に、萬古陶磁器工業協同組合、まだ建物が残っておるやろう、川原町に。ああい

うのを全部処分して入れるとか、何かやらないとまずいと思うんやわ。使っておれば別やで。

萬古陶磁器卸商業協同組合のほうも、もともと自分たちの倉庫がもうだめで、建てかえる金がないし、運営も難しかったけど、建てかえてくださいよということだったから。しかし、それまでそこで商売をしておったわけやね。だから、そのあたりもどうやってしたら儲かるのかというのがあったはずやから、そういうのをやっぱりきちっと出してもらわないとまずいと思う。

今、答弁を聞いていると、萬古陶磁器工業協同組合、萬古陶磁器卸商業協同組合とも案を今つくっておる最中やという話やから、その案に期待したいと思っていますけどね。ちょっと案を見る前に嫌なことを言ったけど。

永田商工農水部長

こちらもおっしゃっていただいたような部分で、やはり業界として頑張っていたきたいというお話もずっとさせていただいております。その中で、最初に課長がお話ししました1ページの経過の中でも、市で運営してほしいという話に対して、いや、市ではということで、業界として頑張してほしいというやりとりがある中で、やはり世代交代も若干あったこともありまして、アイデアとしては出していただけるような形にはなってきていると。全面的に全てよくなったというわけではありませんけれども、やはり汗をかこうという姿勢は出していただいていると思いますので、こちら今後も自立に向けて、ちょっと苦いことも言わせていただきながら話もさせていただこうと思っています。

小林博次委員

行政側は、もちろん施設を改修したり、金を入れても反対するわけじゃないんだけど、国際的なバイヤーが四日市市には入らんわけや。入って泊まるようなホテルもないわけや。国際水準の。だから、もうちょっと商売という観点できちっとした支援をすべきやと思うな。

別にこれに反対しておるわけじゃない。この程度では先が見えておるんやないのとおっただけで。だから、もっと本格的にきちっとしたことをやっていくと、将来的にまだ伸びていく。そうでないと、少子化で子供が減って購買力が落ちるだけ、国内シェアも縮んでいくだけやから、何遍やってもだめやと思うので。

そういうこと、以上。

加藤清助委員長

ばんこの里会館の運営主体は連合会ということでいいんですよね。さっきの事業収支のあれも、主体者が第一義的な責任があるということですよ。

服部工業振興課長

ばんこの里会館の運営主体は連合会でございます。各種改修事業につきましても、連合会が実施していくものでございます。

加藤清助委員長

他の委員からございましたら。

加納康樹委員

参考までに数字だけ教えてほしいんですが、報告書の7ページから9ページぐらいまでにかけての、例えば7ページでいくと、来客数、売上高の平成24年度の数字をそれぞれ8ページ、9ページとかけて教えてください。

加藤清助委員長

平成21年度、平成22年度、平成23年度はあるけど、平成24年度ということですね。わかりますか。

服部工業振興課長

来客数の把握はちょっと今手元にはございませんが、売上高で申しますと、7ページ、陶芸教室の売上高でございますが、陶芸教室、平成24年度は1070万7000円。それから、ショップの売り上げにつきましては、1443万6000円。

加藤清助委員長

あとは。この二つだけ。

服部工業振興課長

済みません、今、手持ちの決算書でご報告させていただきました。

加納康樹委員

9ページのところの貸し館の数字ぐらいも出るんじゃないかと思うんですが。貸し室か。

加藤清助委員長

わかりますか。件数、平成24年度。

釜瀬工業振興課主幹

貸し室収入、平成24年度の数字は、金額ですけれども……。

加藤清助委員長

件数やで。金額は書いていないもんね。

加納康樹委員

まさか出ないとは思わなかったの、ちょっとなめておったらあかんで、あんたら。3月のを焼き直してそのまま出せばいいと思っておるの。今、もう8月やで。何でこんな数字が、平成24年の集計が手元にないの。適当にこの委員会の協議会を済ませたらいいと思っておるのと違うの。答えてみて。

永田商工農水部長

数字がすぐでないことは申しわけないと思います。申しわけないです。すぐ調べまして、またご報告させていただきたいと思います。

加藤清助委員長

誰か調べに行ったらわかるとか。

じゃ、加納委員、続けてもらえますか。

加納康樹委員

では、今の売上高の数字、7ページと8ページぐらいしか比較のしようがないんですけども、工業振興課長が説明していた流れと平成24年の数字ってそぐっています。なんか陶芸教室のところも、平成23年までいいけど、結局平成24年の数字を聞くと頭打ちになっているような、そんなようなことにしか聞こえないし、うつわ亭の売り上げも伸びていないというふうには数字的にとれないので、そういうところも含めてもう一度このページの説明を改めてほしいですね。お願いします。

服部工業振興課長

それぞれの売り上げ目標につきましては、説明を省略させていただいている部分でございますが、29ページをごらんいただきたいと思います。

ばんこの里会館の主な収入源でございます陶芸工房とうつわ亭の売り上げを伸ばしていくという想定をしておりますが、陶芸工房につきましては、ご報告させていただいた料金の値上げ、定時陶芸教室の料金の値上げとともに、もう若干、説明を省略させていただいた部分でございますが、観光客向けに短時間で体験できるようなメニューの開発などを予定しておりまして、それに基づいて売り上げを伸ばしていく計画にしております。

また、うつわ亭につきましても、希望的観測としましては、大手流通の中へ入り込んでいくということを狙い込んでおりますが、来客による売り上げだけではなく、そういった業界への入り込みをもくろんでおりまして、それによって売り上げを伸ばしていくという想定をしております。

加納康樹委員

想定はしていらっしゃるようなんですが、平成24年度でいきなりマイナスに転じている。なんか、その想定、いいんですかという気がしてしょうがないんですが、もう結構です。

加藤清助委員長

他の委員。

小林博次委員

それと、行政側の支援の一つの方向として、ばんこの里構想というのがあったんやけど、あれはどうなっておるのや。だから、こういう施設をつくったら、当然、それを中心に構

想が前を向いて進んでいかんとあかんと思っておるんやけど、尻切れとんぼになったのと違うの。

佐藤商工農水部次長兼商業勤労課長

ばんこの里会館の建設のお話が出てきたときに、大きな構想があったことは私も聞いております。その中身というのは、ばんこの里会館を建てるとか、そういうことじゃなしに、周辺一帯をもう少し、それぞれの事業所なんかを回って散策ができたりだとかいうふうなこととか、歩道を整備したりとか、そういったことがあったように聞いてございます。

ただ、このばんこの里会館をつくりまして、その後、一部だけは、今、川原町の通りのところが少しカラー舗装がされておるとかいうのがございますけれども、そういったことはやられたようですけれども、それ以降の整備というのは特になされていないというふうなことで聞いてございます。

小林博次委員

そうすると、もうなくなったわけか。

予算をつくるときに何か絵を描いておいて、一つだけとれたらあとはほったらかすというのがこの悪い癖なんやろうね、四日市市の。

一番近い例では、羽津地区の三重橋垂坂線、高い賠償金額で賠償しておいて、もう10年たったらアクションを起こすような感じやけど、もう1年か、何もあらへんやない。だから、絵だけ描いておいて、自分の目的を達成するとほったらかす。それじゃちょっとまずいと思うんやけど。

永田商工農水部長

以前にばんこの里会館の構想がありまして、その後も、例えば実際に製造している事業者さんについて、見学コースという形で整備を若干してきたところがございますが、その辺について今十分には活用されていないというのが現実にあると思いますので、今後、そういうものをもう一度活用できないかということはこちらとしても考えていく必要があるというふうに思っております。

加藤清助委員長

よろしい。

他の委員。

伊藤 元委員

事業主体が事業者側、企業さんにあるということやでちょっとどうなのかなと思うんやけど、わかる範囲で教えてほしいんやけれども、赤字経営ということで、やっぱり何とかしていかなあかなと思う気持ちは皆さん一緒やと思うんやね。その中で、やっぱりいろいろな努力をされていると思うんやけど、さっき課長の説明では、陶芸工房のほうの利用者が減っておる中で値上げをしていくみたいな話があったと思うんやけど、それって悪循環に入っていかなへんのやろうかと思うんですよ。よくやる手法なんやけど、利用者が減っておるでその利用金額を上げて売り上げをキープしていこうという考えやけど、それでは実質のなぜ減っておるかという部分がふえやんのやで、僕はそれはちょっとおかしいなと思うんですよ。その辺、思いません。

加藤清助委員長

値上げの計画の背景とかはわかりますか。

服部工業振興課長

値上げを行いましたのは定時陶芸教室ということで、陶芸を本格的に取り組んでやっていこうという方の料金でございまして、一般の一回来てやっていただく体験コースは値上げをしてございません。定時陶芸教室の方につきましては、値上げ前の生徒の方にアンケートをとりまして、どの辺までなら継続して受講していただけるかというようなことを実施した上で値上げというふうに聞いてございます。

結果として、教室を引き続き受講してみえる方がほとんどであるというふうな把握をしてございます。

伊藤 元委員

そうすると、利用しておる人たちにきちんと聞いて、そういう興味を持った人たちがずっと定期的にやっていくのにはこれぐらいの値上げなら問題ないよという中での値上げということやね。それならいいのかなとは思いますがね。

ただ、取っかかりが高くなれば入りにくくなるというのもあるで、やっておる人においてはいいのかもわからんけど、これから始めようと思った人の場合はちょっと心配はするなという思いがあるんですけどね。わかりました。

それと、もう一つ、開館時間なんやけれども、陶芸工房のほうは夜9時まで、貸し室の場合も夜9時までオーケーだけど、ショップ、常設展、これが5時までなんですよね、5ページを見ておると。今の時代、もうちょっと時間、長いことあいておってもどうなんやろうという気がするの。例えば19時ぐらいまであけておけば、ショップのほうの売り上げが。ただ、レジを打ったりとか管理面で費用対効果を考えやなあかんのやろうけれども、そんなのもどうなのかなと思って。そういう開館時間の検討というのも入っていなかったもので、ちょっと話をさせてもらったんやけれども、その辺はいかがでしょうか。

加藤清助委員長

運営上の検討はなされているんですかというご質問だと思いますけど。

服部工業振興課長

項目としては上げてございませんが、周辺の施設等の開館時間等を参考にしながら意見交換をしておるところでございます。

参考まででございますが、じばさん三重につきましては10時から18時、夏の期間中は19時までやってございます。民間商業施設等で言いますと、ジャスコの北あたりは夜11時までやっているというような例もございます。

加藤清助委員長

他の委員であれば。

早川新平委員

12ページの施設の老朽化などというところの下から3行目、4行目のところの2階ショップ部分の存在が外からはわかりづらくというところが入っています。今後、施設を改修するのであれば、レイアウトに起因する課題もいっぱいあるというふうに書いてあるんですが、こんなの建設するときにはわかっておった問題と違うの。何でもええで建てたらええという感覚があるから。これ、常識で考えても、私ら時々行かせてもらうんやけど、非常

に入りづらいし、2階ににじいろ堂さんがあること自体も知らないし。何でもいいから建てるという、さっきの資料、加納委員が強く指摘されておったように、せっかくつくるのなら、市民のために、あるいは陶磁器協会の方たちの意見とか、そういったものを反映しないと、このときだけやり過ごせばそれで済むんやという姿勢に見られるのさ、現実。こんなの、今ごろ指摘するのって、もうつくるときにわかっていることやろう、設計図を見たら。私はそう思うんやけど、ショップ、2階に行かないかんし、確かにエレベーターはついているけど、非常にわかりづらい。だから、閉鎖的な会館のように私らには見えるんですわ。

先ほど小林委員がいろんな指摘された、ばんこの里会館ができた経緯とかいうのは出ていたけれども、ここでそんな今さら15年たってから、レイアウトが悪いのでって、見てもわかりますやんか。だから、そんなことを、自分の痛みとして感じてもらわんと、ここで問題で出てきたら、もう老朽化やから直して、大がかりな補修になってくると思うんですよ。それがレイアウトだけでもきちっとできれば、ちょっとしたところの10分の1ぐらいの手直しで済んでいくようなというふうに私は思っているんですよ。外から見ても、15年たって立派やし、中はきれいやし、ただ、使い勝手が悪いということは今さら言わんでもわかっていることで、その姿勢をやっぱり理事者側は考えないといかんと思うわ。

この萬古協会の方とか、業界の方がいろんなことでつくっていただきたいとか、その気持ちは当たり前のことなんだけど、今回の今後のことでも、じゃ、市が運営してくれ、いや、業者さんが運営してくれ、じゃ、それを一生懸命補助しますということでも、何か第三者的やんか。せっかく金を出すなら、より黒字化になるように、数字一つでも。さっきの値段を上げますわといっても、伊藤委員が指摘したように、逆やろうと。もっと門戸を広げて周知して、人数を会員さんもふやしていくような形でやっていかんと、何か閉鎖的やなと。せっかくあんな立派なものを建ててさ。そこをやっぱりちょっと、一言あったら教えてほしいわ。どういうスタンスでこのレイアウトがあたの当時、まだ15年前なんやで、部長や課長、みんなご存じやと思っておるんやわ、できたときの経緯。

そのところは、今さら戻れないけれども、ここをスタートとするならばどういうふうに変えていくんやと。レイアウトを変えろと言っておるのやったら、どういうふうにするんやとということ。そこだけはやっぱり考えてほしいわ。俺たちもせっかくばんこの里という四日市市が誇る地場産というものに関して立派なものがあるんやけど、外面はええけど魂が入っていないような感じがしてさ。せっかくやからみんないいものをつく

っていこうという姿勢がないと、こんなぼやいておっても仕方がないで、もうやめるけどさ。そこだけ一言あったら教えてほしいわ。

加藤清助委員長

建設のときのレイアウトとか設計って、市はかかわっていたの。それと、今度、この改修なんかをするというのは、市はどうかかわれるの。

早川新平委員

そこだけ、今、委員長に補足していただいたんだけどさ。

服部工業振興課長

建設当時の話としましては、当時の市役所建築営繕課が設計を行ったというふうに把握はしてございます。

レイアウトにつきましては、当然、業界のほうとの相談の上ということであろうと思います。

今回の改修につきましては、改修計画のほうは業界で立てていただいて、それについての支援を市のほうで検討するというところでございます。

早川新平委員

金を出しておるんやでさ。補助を出しておる以上は、よりいいものをつくるためには、いい意味での口出しは、僕は必要やと思っておるんやわ。だから、そののところを真剣に考えてもらわんと、ここで手直し、もしよしんばしたとして、いや、また10年後に、あれ、悪かったですわと、そんなことがないように、運営方針も全てな。それはすごく感じるんやわな。せっかく僕ら、利用させてもらっておって、いい施設なんやけど、すごく閉鎖的、入りづらいわ。それは誰でも、皆さんでもおわかりやと思うんやけどな。それをちょっと考えていただきたいんやけど。

永田商工農水部長

おっしゃっていただく部分は、こちらも認識はしております。いつも定期的に業界と会議をやっています。それで、うちの者も行って議論をしておりますして、その中での意見交

換の中で、実際にどう進めていくかについては結びつけていくことになると思います。

それと、先ほどの定時の教室といいますのは、比較的値段としてはほかに比べて安いような値段の中で、かなり多くの方が好評で利用していただいていると。その中で、最低限このくらいであれば大丈夫であろうというような形で値上げはさせていただこうと。ですから、入り口のところについては、値上げはしないで広めていくというのは残していこうと。

それから、学校への出張教室とか、そういう部分も、やはり地域から愛される施設であって、萬古協会というものが市民から愛されないと、地域からも愛されないとやっぱり前向きに行けないという考えは持っております。その中で、意見交換としては厳しい部分もしながら計画をつくっていくということにさせていただきたいというふうに思っております。

早川新平委員

萬古まつりのときに、あそこは何時まであけておるんですか。

加藤清助委員長

祭り期間中。

早川新平委員

そうです。入場者が何人ぐらいとか、そういうのはあるのかな。閉まっておるのかな。

服部工業振興課長

萬古まつりにつきましては、萬古まつりの開催時間はショップもあけてございますので、初日が9時で2日目が6時ということにことしはしたと思います。去年は両日9時ということでした。

早川新平委員

ありがとうございます。

売り上げの数字なんかは出ておるのかな。今、安いから云々という、それは教室のことやろうけれども、安い高いは利用者がするんやで、そのところはやっぱり考えていかんと

あかんと思う。せっかくばんこの里会館あり方検討会で指摘されておって、行政がどうやってかかわっていくかという大事なところなんやでさ。納得できるいいものをつくって。どうせつくるんやで僕はつくってほしいんやけど、いいものをな。だけど、お茶を濁すような形だけやったら、こんなのやめたほうがええわ。さっき小林委員が指摘したみたいに、赤字になったらみんな切り捨てるのにここだけは残すとか、それはおかしいので。

加藤清助委員長

ご意見でよろしいか。

早川新平委員

以上です。

服部工業振興課長

済みません、萬古まつりのときの売り上げだけご報告をさせていただきたいと思います。金額ベースでございますが、今年度の萬古まつりのときのショップの売り上げは142万6000円でございます。ちなみに、平成24年度、昨年は116万8000円ということで、ショップのあいている時間は減らしたのでございますが、売り上げは伸びているという状況でございます。

加藤清助委員長

関連して、今戻られたから、先ほどの加納委員のご質問の数字、報告できますか。

できるのかできやんのか、どっち。わからんということ。それを調べに行ったのかなと思ったんやけどさ。

じゃ、関連して資料請求をされますか。

小林博次委員

ちょっとわからんのやけど、資料が欲しいんやけど。萬古陶磁器卸商業協同組合の施設もまだ前にあったか。もうなかったか。そこら辺の輪郭と、それから、萬古陶磁器工業協同組合のほう。資産がどのくらいあるのか知らんけど。

加藤清助委員長

萬古陶磁器工業協同組合と萬古陶磁器卸商業協同組合の収支ですか。

小林博次委員

いや、建物があるので、その建物をどうやって活用しているのかわかんけど、その辺。建物の活用の仕方。参考になるようなことがあれば。

加藤清助委員長

それはまた資料で。後日でよろしいか。

小林博次委員

後日でいいです。だから、このばんこの里会館に集中して成果を出していくようにしていかんとちょっとまずいのではないのかなという意識が個人的にあるので、そういう意味で資料をもらえたら。よろしく。

加藤清助委員長

では、対応をお願いします。

伊藤修一委員

状況をちょっとお伺いしたいんですが、平成25年度の目標は、専任管理者の館長さんに来ていただいて、専任して、そしてスタートしていくというふうなことが書かれているんですが、現在、選考中となっているものの、もう平成25年も、どんどんどんどん日がたっているんですが、まずその専任管理者さんというのはどのような状況になっているんですか。

加藤清助委員長

補足説明をお願いします。

服部工業振興課長

正式に元委員でありました岡田文化財団の前事務局長の中村氏に推薦依頼をお願いした

のが5月の初めごろでございました。それに基づきまして、具体的に申し上げますと、イオンOBの方を中心に何人が当たっていただいております。1人目に推薦をいただいた方につきましてはご家族の健康状態の関係でお断りになられた。2人目につきましては、ちょっと責任の荷が重いなというその方の判断で回答を保留されており、今また次の方を当たっていただいているというような状況でございます。

伊藤修一委員

物すごく重たい仕事なんだと思うんやわね。その方が結局そういうふうな責任を持ってやっていけなくちゃならないという、いわゆる全部のリスクを背負って責任を持ってやっていくということは、非常にその方にとっては、外部からと言われても、縁もゆかりもなく、幾ら経験かノウハウがあったとしても、このばんこの里の全般的な課題として、例えば11ページに赤字の運営とか責任体制の明確化とか、余りにも重たい課題を、そういう責任管理者を外から呼んできて、その人に気張ってやってくれというのは、本当に根本的な解決につながるんやろうか。

現実にはそういう方が本当に候補者としておるんやったら、平成25年にスタートした時点でもう明確になって、その方がリーダーシップがとっておるはずやと思う。いまだにそれが決まらないということは、余りにも現実の問題と、その言うておる理想とがかけ離れておらへんのやろうか。そこら辺は現場の声としてどういうふうな認識をされてみえるんやろう。

服部工業振興課長

当初は、業界の中でということで探していただいたわけですが、業界として候補者といえますか、館長を選任するということが実現に至らなかった。業界としては適任者の推薦ができないという判断があったために、それ以外の関係者ではない部分でお願いをしようということに至っているという状況でございます。

伊藤修一委員

だから、内部でいないから外へ行くというのはある話かもわからないけど、現実的にその方向性や考え方が妥当だったのかどうかという。きちっとそのことがあり方検討会で書いてあるような責任管理者を置いて責任をとっていく人を明確にするということに結びつ

くのかどうかという。本当に現実的な考え方なのかどうかという。私自身もすごく心配で、平成25年度がどんどんどんどん、ずるずる行って、一体こういう責任を1人の個人の人が、外部から来た人が本当に担えるのかどうかというのがすごく疑問なんだけどね。

そういう部分では、じゃ、もう市の人は何もノータッチで、その考え方で、あり方検討会の出された答申どおりで、このまま放置して、看過して見守っていいのかどうか。本当にその辺の考え方はどうなんやろうかと思うんやけど。

永田商工農水部長

専任の管理者をといるところについてですが、一つは、先ほど工業振興課長が申しましたが、やはり小売りというものの感覚を事業に入れられないかという点があったと思います。

それから、もう一つは、2年交代で連合会の会長が変わっていく、工業、商業とという中で、継続性を持って1人の管理者として、工業、商業にかかわらず、全体を見る中で事業についての意見をまとめられないかという考え方があったんだと思います。

確かにご指摘いただいたように、今それが埋まっていないところについては課題になっておりますので、今後も人選をすると同時に、もしその辺が今後も難しいということであれば、その役割についても少し議論と整理は必要になるかと思ひます。

伊藤修一委員

もう放っておいても、これ、時間ばかり食っていく話になっていくし、それから、市の支援を求めておるわけだけれども、そのことについても責任管理者、その人の今後の役割がとても大事になってくると思うので、この様子について、また議会のほうにも状況等をまた報告だけいただくようお願いをしておきたいと思ひます。

加藤清助委員長

館長の選任の報告ということですね。また報告願ひます。

他の委員の方。村山委員とか笹岡委員、よろしいか。

村山繁生委員

附帯決議をつけられて、あり方検討会で大方の今後の方向性の報告を受けたということ

で、私らは聞いておりますけれども、ほかの委員の皆さんとか議員の皆さんにご理解をいただいた上でいろんなご意見を伺いたい。私のところもいろんな意見を伺いたいということで、あえて所管事務調査に入れていただいたということでございますので、今、皆さんからいただいたご意見も私もまた参考にしたいというふうに思っております。ありがとうございます。

加藤清助委員長

他の委員、ございますか。

(なし)

加藤清助委員長

一つだけ確認したいんやけど、補助金をずっと市から出してあって、今年度の平成25年度、平成24年度よりも160万円ぐらい増額の補助金になっていますよね。何か施設整備なんとかって関連があったけど、ふやした背景、どこにふやしたのかなと思って。それだけちょっと聞いておきたいんやけど。

服部工業振興課長

ばんこの里会館の小規模修繕に対応するための予算を毎年計上しておりますが、箇所づけというのはしておらずに、枠として若干ふやさせていただいたということでございます。これにつきましては、検討会で検討されたような光熱水費のかかる部分、例えば電球などを消費電力の少ないものに切りかえるとか、そういったことの対応をしていただくというためのものがございます。

加藤清助委員長

小規模修繕の枠の金額をふやしたということなの。補助申請でどこどこをということではなくて。そういうことなの。

あと、よろしいですか。

(なし)

加藤清助委員長

ないようですので、所管事務調査、この件についてはこの程度にとどめたいと思いますが、委員から資料の提供の要求もございましたので、応えていただきたいと思ひますし、それから、途中で加納委員からの質問に聞きに行ってもらいましたが、きょうのところで判明できないということですので、それも含めて後日お願いしたいのと、29ページにあり方検討会の報告書として、個別事業の目標が平成23年度実績と平成26年度、平成29年度とあるんですけど、できたらこの間にさっきの平成24年度と、それから25年度の目標はどうなっておってというのでせんと、これ、間ができておるもんで、そこも市のほうであり方検討会の数字を受けて掌握した数字を補強して提供願ひたいというのが私のお願ひです。よろしいでしょうか。

早川新平委員

委員長、今、そうやって指摘していただいたので、その数字、ただ単に目標やなしに、こうこうこういう理由でこういう数字が出てくるという具体策も一言入れておいていただきたいなというふうに思ひます。

加藤清助委員長

ということです。じゃ、よろしくお願ひいたします。

所管事務調査はこの程度にとどめさせていただきます。

1時間経過いたしましたので、10分休憩して、この時計で午後2時45分再開といたします。再開後は協議会に切りかえさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

休憩に入ります。

14 : 33 休憩

15 : 56 再開

加藤清助委員長

お手元のほうに議会報告会のシティ・ミーティングのテーマについてということで、8

月定例月議会のシティ・ミーティングは、10月8日にヘルスプラザでということまで決まっておりますが、その際のシティ・ミーティングのテーマについて、きょうお諮りしたいと思います。

別紙で、これまでの平成23年度、平成24年度、平成25年度の当委員会のシティ・ミーティングのテーマの経緯が書いてございますけれども、今度の10月のシティ・ミーティングテーマはいかがいたしましょうか。ご提案があれば受けたいと思いますが。

伊藤修一委員

正副委員長にお任せしますわ。

加藤清助委員長

これを見ておると、有害鳥獣というのが何回か登場しておるし、今、何やろうね。きょうはちょっと考えていませんので、一任いただければ、また後日、皆さんにご確認いただくということでご了承願います。よろしいですか。

いいでしょう。近日中に決めればいいの。

栗田議会事務局主事

もう市議会だよりで公開していく期日が近づいております.....。

早川新平委員

何日までなの。

栗田議会事務局主事

もう本当に最終更正の段階ですので.....。

加藤清助委員長

だから、あしたとかあさってに正副委員長で決めれば。

栗田議会事務局主事

そういうことであれば大丈夫でございます。

加藤清助委員長

では、あとは、冒頭にご案内いたしましたように、5時20分に競輪場の視察を行いますので、5時に市役所出発ということです。事務局の車で行かれる方は午後5時に、この市役所地下1階の玄関前にご集合願います。それぞれ個人の車で行かれる方は既に案内されていると思いますが、駐車場、指定のところ、そして、来賓席までお越してください。5時20分現地集合ですね。

じゃ、これをもって閉会いたします。お疲れさまでした。

16:00閉議